

令和３年度第２回福島県後期高齢者医療懇談会議事概要

日 時 令和４年１月２６日（水） 午後１時１５分～午後２時３７分

場 所 「Ｚｏｏｍ」オンライン会議

出席者 別紙出席者名簿のとおり

議事概要

事務局より議題について説明を行い、その後、各委員から意見等を伺った。委員の主な発言等は以下のとおり。

○令和３年度の後期高齢者医療概況について

- ・受診抑制がおきているのではないか。心配なのは後年負担になるのではないかということ。受診抑制で病状が悪化してから受診になると手遅れもあり得る。今の福島の実状と近い将来の予測を感じさせるデータである。

○令和４・５年度新保険料率最終試算結果について

- ・口頭で説明されたが、数値的なデータは、資料への記載を要望する。
（事務局）ご指摘のとおり対応する。
- ・剰余金の性質と全額を説明願いたい。
（事務局）剰余金は、令和２・３年に被保険者からお預かりした保険料から、必要な療養給付等を差し引いた残額。３年度末の剰余金は３５億円を見込んでおり、その全額を保険料上昇抑制財源として繰入れる。
- ・受診抑制などの要因で療養給付費等が抑えられたことで剰余金が増えたという理解でよいのか。
（事務局）保険料収入が増えたこともあるが、そのとおりである。
- ・前回の資料も見ており、剰余金は４５億とあるが、今回は３５億である。「剰余金全額の３５億円」と記載してはどうか。
（事務局）分かりやすい資料とするため、ご指摘のとおり修正する。
- ・一人当たりの保険料額について、試算を表記しているが実績でないのは何故か。
（事務局）前回の資料は、その時点の実績値を参考に記載した。今回は、試算の比較のため記載している。
- ・試算の次に実績があり、実績に基づき試算するのではないか。試算を比較し数値を決定するのは理解しかねる。
- ・試算と実績を併記することで疑問が解消されるので、理解しやすい資料作りを望む。

(事務局) (上記2件について) 保険料率は、実績の比較を行うが、試算に基づき決定している。よって、試算値の比較のため過去の数値を示した。

- ・実績値は極めて重要な情報であり、実績(決算)があり試算(予算)が作られる。例えばその差が大きいほど試算の意味がないように思える。試算に対する信頼性が欠如するため、説明不足があるのかもしれないが、実績情報も併記願いたい。
- ・試算値と実績値の違いで大きな要因は、賦課時の所得状況が年により変化することと思われる。保険料率を設定する際には、一人当たりの保険料必要額を押えておきながら、所得割や均等割の金額を求め、全体の金額を確保していると理解している。資料上、試算で示した考え方は、その当時はこの金額を考えていた、今回はこの金額を必要と考えたいとの意味合いかと推測する。ただし、実績との比較は当然必要なことと考える。被保険者負担区分の資料のとおり、コロナ等が起因し所得は減少する傾向にある。この先、試算で想定していた所得が維持されるか、状況が改善されるかなどの変化も考慮し、健全な財政運営をお願いしたい。今回の算定には、診療報酬の改定や窓口負担の上昇など保険料を下げられる要因もある中で保険料を上げざるを得ないことについては、分かりやすい丁寧な説明が必要と考える。

(事務局) (上記2件について) 多様なご意見を受け止め、算定に当たっての状況や背景など分かりやすい資料作りと説明に努めたい。

○第2期保健事業実施計画に基づく令和3年度保健事業の実施状況について

- ・コロナの特殊要因により判定が困難とは理解しかねる。コロナ禍は2年目であり、この状況が続くことを想定した事業の企画や市町村への働きかけをすべきではないか。特殊要因の全てがコロナなのか、コロナ以外の特殊要因があったのか。コロナの影響に左右されないと思われる事業も評価困難となっているのではないかと。

(事務局) コロナが主要因ではない事業については、評価の方法等も改める。

- ・評価の視点が目標値の評価と判定の2つあるが、未達成なのに課題が記載されていない。課題を明確にした上で何に取り組むかが重要であり、考え方の整理が必要である。

(事務局) 事業を精査し、課題を明確に対応する。

- ・病院に受診している方でも健診データがない方は病院で健康診査をする仕組みか。

(事務局) 主治医から患者に対し、市町村で実施している健診を受診するよう助言をお願いしたい。

- ・次年度に向けて、コロナがあるから判定ができないというのではなく、その状況の中で

の目標設定と評価を行い、次の展開に結び付けられるよう検討願いたい。

(事務局) ご指摘のとおり対応する。

○令和2年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に係る事業実績について

- ・ポピュレーションアプローチは実績が多いが、ハイリスクアプローチの事業実施の印象はいかがか。

(事務局) 直接訪問する個別的指導は、コロナ禍の影響もあり展開が難しかったようである。市町村によっては積極的な取り組みにより実績に結び付いた。2年度は事業実施初年度であり、市町村によりバラツキがあったのは仕方ないかと考えている。通いの場については、緊急事態宣言により事業中止になった市町村もあるが、計画時の参加見込に対し7割超の実績となったのは、市町村が頑張った成果だと考えている。

- ・良い取り組みを行ったのはどこか。

(事務局) 計画に対し1,300%超の三島町です。血圧だけで対象者を抽出したが、対象者を見直し、コレステロール値やヘモクロビンA1cなど基準該当者を幅広く拾って実施した。150%超の白河市は、自宅への訪問指導を計画していたが、コロナ禍であり電話相談に切り替えたことで実施者が増えた。

- ・対面式の事業でなくても、電話やメールでの支援でもよい。実績数を上げる目的ではなく、対象者にしっかりコンタクトをとることで実績が出ることを他の市町村にも共有願いたい。

(事務局) ご指摘のとおり、市町村へ情報発信し共有する。

○その他の意見

- ・達成しているが評価が×は残念である。重複投薬については、薬局独自に実施している背景もある。
- ・会合時のあいさつで「基本健診を受けてますか」と、自分の体験談や知人の例などとともに話しているが、改めて、基本健診を勧めることは重要なことだと感じた。
- ・通いの場について、北塩原村は老人クラブ等の活用で参加者が増えている。市町村と連携し、老人クラブと会員外も取り込み楽しみの場を作ることがポイント。

以上

福島県後期高齢者医療懇談会委員名簿

任期：令和3年10月30日～令和5年10月29日

※令和3年10月30日現在（敬称略）

所 属 団 体	役 職	氏 名
公益社団法人 福島県シルバー人材センター連合会	専務理事 兼 事務局長	さとう よしずみ 佐藤 義住
公益財団法人 福島県老人クラブ連合会	常務理事兼事務局長	さいとう ちえこ 斎藤 千恵子
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会	事務局長	せき やすお 関 靖男
一般財団法人 福島県婦人団体連合会	会 長	こばやし きよみ 小林 清美
福島県民生児童委員協議会	副会長	ときた あきひこ 時田 昭彦
一般社団法人 福島県医師会	副会長	やぶき たかし 矢吹 孝志
公益社団法人 福島県歯科医師会	常務理事	さか もと よしゆき 阪本 義之
一般社団法人 福島県薬剤師会	副会長	はせがわ ゆういち 長谷川 祐一
公立大学法人 福島県立医科大学	理事兼副学長 公衆衛生学講座教授	やすむら せいじ 安村 誠司
福島県保険者協議会 (福島県国民健康保険団体連合会常務理事)	委 員	はやし あきひこ 林 昭彦
福島県	国民健康保険課長	よもぎた しんいち 蓬田 慎一
福島市	国保年金課長	さとう ひろゆき 佐藤 浩之